

流通経済大学

履修要綱

流通情報学部

(2013 ~ 2016 入学生用)

目 次

学部の教育方針	2
入学年度別教育課程表①～⑧	5
履修の手引	15
1. セメスター制	17
2. 単 位 制	17
3. 最高履修単位数	17
4. 3学年進級に必要な単位数	18
5. 卒 業	18
6. 科目の履修	19
7. 単位の修得	19
8. 休講と補講	20
9. 出席調査	20
10. 災害時の授業	20
11. 試 験	20
12. 不正行為	21
13. 成績評価	21
14. GPA	22
15. 単位の認定	23
16. 他キャンパス受講	25
17. キャンパス変更（スポーツ健康科学部は除く）	25
18. 履修の方法【2016年度・2015年度・2014年度・2013年度の入学生】	26
19. 卒業に必要な総単位数	30
20. 資格の取得について	31
21. コース【2008年度以降の入学生】	34
22. 卒業研究	38

流通情報学部 of 教育方針

流通情報学部では、情報科学と流通科学との有機的統合をはかり、情報社会における流通の高度化に寄与する人材の養成を目的とする。

教育理念

インターネットの急速な普及で、もっとも大きな影響を受けているのは流通産業です。IT 革命が取引に必要な情報の入手費用を劇的に低下させたことで、インターネットを通じて世界中のどこでもリアルタイムで効果的に市場取引ができるようになりました。21 世紀の市場経済は、IT の進展で大きく変化しています。

本学が考えている流通情報学とは、「情報の世紀」における流通の近代化・効率化を推進するために（課題）、情報科学と流通科学との有機的統合化と一体化をはかり（内容）、もって、最も望ましい流通情報ネットワークとそれを基にした流通システムのあり方を追求する（政策）、新しい学問であると定義づけることができます。

こうした概念は、近年、「ロジスティクス」として世界的に研究されている学問分野とほぼ完全に重なり合っています。ロジスティクスは、通常、『顧客が必要とする条件に適合させるように、産出地点から消費地点に至るまでの財とサービスならびに関連する情報のフローとストックを、効率的かつ有効なものとするように計画立案し、実施し、かつ制御する過程』と定義されます。

本学科では、このような過程を有効に展開していく場において、最高の能力を発揮しうるような人材を育成していくことを目標とします。

指導方針

流通情報学部は、「ロジスティクス」を柱とした、日本においては、唯一といってよい特徴あるカリキュラムを有する学部です。上記のような教育理念を実現し、各人が「ロジスティクス」の深い知識を身につけることができるように、本学部では次の指導方針を掲げます。

- (1) 流通の社会的あり方について、経済学および経営学的見地からの理解を深めるため、経済学、経営学の両分野を含め、広く社会科学的素養を身につけさせます。ロジスティクスを理解するうえで、経済学および経営学、その他関連社会科学の理論および分析手法を学ぶことが、多くの点で有用だからです。
- (2) さらに、情報処理技術についての実行能力を高めるため、情報科学の基礎および応用についての実力を涵養します。これは、ロジスティクスのほとんどすべての側面において、高度な情報処理技術が必要とされるという社会のニーズに適合します。
- (3) また現在、ロジスティクスの対象、評価軸は大きく変化しようとしています。従来の効率中心だけではなく、環境調和、社会共生、さらにわれわれの生活をより豊かにするといった様々な視点から、ロジスティクスを考える必要があり、広い知識を身につけさせます。
- (4) 本学における建学の理念の一つである実学主義に基づいた教育を実践します。すなわち「現場における見聞・体験と知的作業を通じて、事物の本質的特徴をいかに捉え、概念を構築するか」、「豊かな想像力と感受性のもと、現場でいかに課題を発見し、解決に挑戦するか」といった視点から、様々なかたちで各企業の実際の現場に触れ、知識を身につけさせます。

本学部の授業科目体系は、以上の4つの指導方針を柱として構築されており、それらを熱心に履修することにより、流通情報学のソフトおよびハードの両面に優れた人材を育成し、輩出することを目標としています。これは、まさに、社会の要請に応えるものといえます。

流通情報学科の教育方針

教育目的（流通経済大学・学則・第4条の2）

流通情報学科では、ロジスティクスの考え方を核として、広い視野を持って経済・社会システムをデザインすることができる人材の養成を目的とする。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

ロジスティクスとは、単に財を効率的に運んだり、保管したりする体系に留まるものではない。顧客（相手先）のニーズに応じてという点が重要である。すなわち、必要とされるものを、必要な量だけ、求められるタイミングで、いかに安全・安定的に、さらに効率的でコストパフォーマンスにも十分配慮した状態で相手に届けるかがポイントとなる。そのためには顧客は誰なのか、顧客ニーズは何なのか、関係者間のつながりをどう捉えるかも重要な要素である。つまりロジスティクスとは、効率的で有効な財、サービス、情報のフローとストックの実現をいかに計画立案し、実施し、管理することができるかというシステム思考そのものともいえる。

流通情報学科では、学部の教育目的の下、こうしたロジスティクスの考え方を体现できる人材の育成を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を備えた学生の卒業を認定し、学士（流通情報学）の学位を授与する。

1. 商流・物流・情報の学際領域である流通情報学に関する幅広い知識と技能
2. 理論のみならず、様々な実践的な講座により培われる職務遂行能力
3. 流通情報学に関する知識や技能に基づく問題発見・解決能力
4. 豊かな教養や社会性、国際性、コミュニケーション能力

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

カリキュラムポリシーの基本的な考え方は、ディプロマポリシーをより具体化し、専門知識と教養を兼ね備えた人間力のある人材の育成に資する教育課程の編成と実施である。

4年間を通じて、学ぶことの楽しさや、授業や体験をふまえた知識、教養の段階的な積み上げを実感できる枠組みとなるように意図している。

以下、具体的な開講科目は次の通りである。

1. 流通情報学が経済学や経営学、社会学などの社会科学、および工学などの学問領域にも広く、深く関連している学際的分野であることを理解させる科目群
2. 流通情報学は新しい学問分野であり、社会の変化、価値観の多様性などに敏感に対応する必要性が高く、そのためには幅広く豊かな教養の素地が重要であることを理解させる科目群
3. 流通情報学は理論的な基盤のみならず、実際の、現場の状況把握、その分析・評価にも重点を置いていることを理解させる科目群
4. グローバル社会、情報社会にあって、ロジスティクスは世界共通言語であることを理解させるための情報スキルアップ科目群
5. ロジスティクスは学際的分野であることから、その遂行を補完する知識・能力を理解させる科目群（発展系、副専攻）
6. コミュニケーション能力および課題発見・解決能力を育成するための演習科目

入 学 年 度 別 教 育 課 程 表

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要	
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数		
必修科目	1年演習(ゼミ)	4	2年演習(ゼミ)	4	3年演習(ゼミ)(注9)	4	4年演習(ゼミ)(注9)	4	必修科目34 単位を履修 しなければ ならない。	
	情報基礎Ⅰ・Ⅱ	各2	リベラルアーツ入門	2						6単位
	ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 情報学概論Ⅰ・Ⅱ	各2					卒業研究	4		12単位
外国語(注1)	英語 AⅠ・AⅡ 英語 BⅠ・BⅡ ドイツ語 AⅠ・AⅡ ドイツ語 BⅠ・BⅡ フランス語 AⅠ・AⅡ フランス語 BⅠ・BⅡ 中国語 AⅠ・AⅡ 中国語 BⅠ・BⅡ スペイン語 AⅠ・AⅡ スペイン語 BⅠ・BⅡ 朝鮮(韓国)語 AⅠ・AⅡ 朝鮮(韓国)語 BⅠ・BⅡ ポルトガル語・ブラジル語 AⅠ・AⅡ ポルトガル語・ブラジル語 BⅠ・BⅡ	各1	英語 CⅠ・CⅡ 英語 DⅠ・DⅡ 英語 EⅠ・EⅡ ドイツ語 CⅠ・CⅡ ドイツ語 DⅠ・DⅡ ドイツ語 EⅠ・EⅡ フランス語 CⅠ・CⅡ フランス語 DⅠ・DⅡ フランス語 EⅠ・EⅡ 中国語 CⅠ・CⅡ 中国語 DⅠ・DⅡ 中国語 EⅠ・EⅡ スペイン語 CⅠ・CⅡ スペイン語 DⅠ・DⅡ スペイン語 EⅠ・EⅡ 朝鮮(韓国)語 CⅠ・CⅡ 朝鮮(韓国)語 DⅠ・DⅡ 朝鮮(韓国)語 EⅠ・EⅡ ポルトガル語・ブラジル語 CⅠ・CⅡ ポルトガル語・ブラジル語 DⅠ・DⅡ ポルトガル語・ブラジル語 EⅠ・EⅡ	各1						1カ国語を 選択し、10 単位を履修 しなければ ならない。
	(外)日本語 AⅠ・AⅡ (外)日本語 BⅠ・BⅡ		各1		(外)日本語 CⅠ・CⅡ (外)日本語 DⅠ・DⅡ (外)日本語 EⅠ・EⅡ	各1				
選 択 必 修 科 目	R K U 入 門	1	R K U 実 践					1	6単位 以上	
	キャリアデザイン		キャリアマネジメント	各2						
	キャリア形成		キャリアカウンセリング				(外)ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ	各1		
	海外研修							2		
	資格取得	(別記1)						各1		
		(別記2)						各2		
		(別記3)						各4		
	(特)キャリア特講(基礎)	2	(特)キャリア特講(発展)	2	(特)キャリア特講(職業)	2				
	(特)グローバルコミュニケーション(基礎)	1	(特)グローバルコミュニケーション(発展)	1						
	災害ボランティアⅠ・Ⅱ							各1		
社会・ 企業研究			日本通運寄付講座 業界研究特別講座		全国通運連盟寄付講座		野村証券寄付講座	各2		
			インターンシップ基礎		インターンシップ			各2		
			インターンシップ(海外)					2		
進路支援	キャリア基礎(数理) キャリア基礎(言語)			各1						
	キャリア発展(数理) キャリア発展(言語)									
						職業選択論		2		
教養基礎科目	言葉や思想 に関する領域	哲学Ⅰ・Ⅱ 言語論Ⅰ・Ⅱ (外)日本の思想	論理学Ⅰ・Ⅱ 現代文章論Ⅰ・Ⅱ		教育学Ⅰ・Ⅱ イスラム学Ⅰ・Ⅱ		心理学Ⅰ・Ⅱ 宗教学Ⅰ・Ⅱ	各2	24単位 以上	
	社会や健康 に関する領域	社会学Ⅰ・Ⅱ 健康科学論Ⅰ・Ⅱ 外国文化論(アジア)Ⅰ・Ⅱ	経済学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツの理論と実技 外国文化論(西欧)Ⅰ・Ⅱ		法学Ⅰ・Ⅱ スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ (外)日本の現在	人文地理学Ⅰ・Ⅱ 日本文化論Ⅰ・Ⅱ (外)日本事情				
	自然や環境に 関する領域	数学Ⅰ・Ⅱ 物質科学Ⅰ・Ⅱ	地球科学Ⅰ・Ⅱ 生命科学Ⅰ・Ⅱ		生態学Ⅰ・Ⅱ 自然地理学Ⅰ・Ⅱ	自然環境論Ⅰ・Ⅱ				
	歴史や文学 に関する領域	文学(日本文学)Ⅰ・Ⅱ 歴史学入門(西洋史)Ⅰ・Ⅱ	文学(外国文学)Ⅰ・Ⅱ 民俗学Ⅰ・Ⅱ		歴史学入門(日本史)Ⅰ・Ⅱ 考古学Ⅰ・Ⅱ	歴史学入門(東洋史)Ⅰ・Ⅱ 美術史Ⅰ・Ⅱ				
専門基礎科目 (注9)	流通総合 科目	基本統計学Ⅰ・Ⅱ 流通概論Ⅰ・Ⅱ	商業経営論Ⅰ・Ⅱ 情報科学Ⅰ・Ⅱ 国際ビジネス論Ⅰ・Ⅱ データベース論		マーケティング論Ⅰ・Ⅱ システム分析演習 経営戦略論Ⅰ・Ⅱ		OR基礎論 システム設計演習 ソフトウェア設計論Ⅰ・Ⅱ	各2	26単位 以上	
	物流科目		グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス改善演習 ロジスティクス管理論Ⅰ・Ⅱ		サプライチェーンマネジメント論 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス改善演習 消費者物流論Ⅰ・Ⅱ		物流計画論 物流政策論Ⅰ・Ⅱ 災害ロジスティクス論			
	情報科目	インターネット演習Ⅰ・Ⅱ	ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ ヒューマンインターフェイス論 データサイエンス演習		通信・ネットワーク概論 ネット広告論 プログラミング基礎演習		情報応用システム論 モバイルマーケティング論			
専門実践科目 (注9)		マーケティング実践講座 ロジスティクス実践講座Ⅰ・Ⅱ ダイレクトマーケティング実践講座		ロジスティクス企業訪問講座 国際物流実践講座 IoTロジスティクス実践講座 地域ロジスティクス実践講座		物流マネジメント実践講座 情報システム実践講座	各2	4単位 以上		

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要		
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数			
専門発展科目(注9)	流通総合科目	環境経済論Ⅰ・Ⅱ		流通情報学特殊講義 事業戦略論 流通政策論Ⅰ・Ⅱ 情報化社会論Ⅰ・Ⅱ 情報関連法規 地域経済論Ⅰ・Ⅱ まちづくりと法		消費者行動論Ⅰ・Ⅱ 産業立地論Ⅰ・Ⅱ エルゴノミクス論 生産管理論 広告論Ⅰ・Ⅱ ビジネスゲーム		組織戦略論 商業診断論 情報通信事業論 生産情報システム論 市場調査論Ⅰ・Ⅱ 国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ		各2	
		物流科目		物流関係法		貿易実務論Ⅰ・Ⅱ		流通情報特殊講義(物流インフラ論) (旧名称:物流インフラ論(流情特講))		各2	
		情報科目		プログラミング応用演習 WEBデザイン演習 データベース演習		情報システム基礎演習 コンピュータグラフィックス演習 経営データ演習		情報システム応用演習 コンピュータアート演習		各2	
	学部共通科目	経済学(注3)	日本経済史Ⅰ・Ⅱ 統計学概論Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ		ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ		マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ		金融論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ		各2
			経営学(注4)	経営学総論Ⅰ・Ⅱ 簿記論Ⅰ・Ⅱ		会計学Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ		経営情報システム論 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 管理会計論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 経営財務論Ⅰ・Ⅱ 監査論Ⅰ・Ⅱ		ネットワーク経営論 国際小売論 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーファイナンス 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ	
		社会学(注5)		社会調査法 社会調査実践法		家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学論 地域空間論 教育社会学Ⅰ・Ⅱ グローバル化と文化 産業社会学 国際社会学 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ		障害者福祉論 老人福祉論 社会的扶助論 経済社会学 発達社会学 余暇社会学 観光心理学 福祉行政と福祉計画論		文化人類学論 対人関係論 社会心理学 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 児童・家庭福祉論 介護福祉論 防災社会学	
			法学(注6)	政治学Ⅰ・Ⅱ		憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ		民法(財産法)Ⅰ・Ⅱ 労働法Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ		商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 国際法Ⅰ・Ⅱ	
		スポーツ健康科学(注7)	社会倫理学Ⅰ・Ⅱ 資源環境論Ⅰ・Ⅱ		防災科学Ⅰ・Ⅱ		現代女性論Ⅰ・Ⅱ		メディア論Ⅰ・Ⅱ		各2
		教養発展科目	英会話AI・AII		各1	英会話CI・CII		各1	英会話EI・EII		各1
	留学英会話Ⅰ・Ⅱ(注8) 留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)								各1		
外国語	選択英語初級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ		選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ		各1		
	選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ		選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ		選択ポルトガル語ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ						
			選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ				
					選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語上級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ				
					選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語上級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ				
体育	選択スポーツトレーニング実技Ⅰ・Ⅱ								各1		
教職科目	教師原論 教育心理学 教育社会学概論		各2	教育課程論 特別活動論 生徒指導論 教育相談 道徳教育論		各2	視聴覚教育学 教育方法		各2		
卒業に必要な単位									124単位以上		

左記科目の中から80単位以上を履修しなければならない。(注2)

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
(特) 印の科目は特別奨学生等の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。
(注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AI・AII、(外)日本語BI・BII、2学年で(外)日本語CI・CII、(外)日本語DI・DII、(外)日本語EI・EIIを履修しなければならない。
(注2) この欄の単位数を合計すると、6単位以上+24単位以上+26単位以上+4単位以上=60単位以上となり、80単位以上にはならない。不足分の20単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
(注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学Ⅰ・Ⅱ〕から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。
(注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
(注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
(注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
(注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
(注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
(注9) 「物流マネジメントコース」「国際物流コース」「情報デザインコース」修了認定のための選択科目については履修要綱の「18.コース」のとおりとする。

ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10 1単位	漢字検定準2級 秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) ドットコムマスター-BASIC ロジスティクス管理3級
別記2	20 2単位	漢字検定2級 宅地建物取引士 簿記検定1級 簿記検定2級 販売士1級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定ミクロ・マクロ(Aランク以上) ファイナンシャルプランナー3級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 ITパスポート 医療事務技能審査 ドットコムマスターアドバンスシングルスター
別記3	40 4単位	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 総合旅行業務取扱管理者 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上) 初級システムアドミニストレーター 基本情報技術者試験 通関士

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要		
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数			
必修科目	1年演習(ゼミ)	4	2年演習(ゼミ)	4	3年演習(ゼミ)(注9)	4	4年演習(ゼミ)(注9)	4	16単位 6単位 12単位	必修科目34 単位を履修 しなければならない。	
	情報基礎I・II	各2	リベラルアーツ入門	2							
	ロジスティクス概論I・II 情報学概論I・II	各2					卒業研究	4			
外国語(注1)	英語A I・A II 英語B I・B II	各1	英語C I・C II 英語D I・D II 英語E I・E II	各1					1カ国語を 選択し、10 単位を履修 しなければならない。		
	ドイツ語A I・A II ドイツ語B I・B II		ドイツ語C I・C II ドイツ語D I・D II ドイツ語E I・E II								
	フランス語A I・A II フランス語B I・B II		フランス語C I・C II フランス語D I・D II フランス語E I・E II								
	中国語A I・A II 中国語B I・B II		中国語C I・C II 中国語D I・D II 中国語E I・E II								
	スペイン語A I・A II スペイン語B I・B II		スペイン語C I・C II スペイン語D I・D II スペイン語E I・E II								
	朝鮮(韓国)語A I・A II 朝鮮(韓国)語B I・B II		朝鮮(韓国)語C I・C II 朝鮮(韓国)語D I・D II 朝鮮(韓国)語E I・E II								
	ポルトガル語・ブラジル語A I・A II ポルトガル語・ブラジル語B I・B II		ポルトガル語・ブラジル語C I・C II ポルトガル語・ブラジル語D I・D II ポルトガル語・ブラジル語E I・E II								
	(外)日本語A I・A II (外)日本語B I・B II		(外)日本語C I・C II (外)日本語D I・D II (外)日本語E I・E II								
選 択 必 修 科 目	R K U 入 門	1	R K U 実 践					1	6単位 以上		
	キャリアデザイン		キャリアマネジメント	各2							
			キャリアアカウンティング								2
							(外)ビジネス日本語I・II				各1
	海外研修										2
	資格取得	(別記1)									各1
		(別記2)									各2
		(別記3)									各4
	(特)キャリア特講(基礎)	2	(特)キャリア特講(発展)	2	(特)キャリア特講(職業)	2					
	(特)グローバルコミュニケーション(基礎)	1	(特)グローバルコミュニケーション(発展)	1							
社会・ 企業研究	災害ボランティアI・II		日本通運寄付講座 業界研究特別講座		全国通運連盟寄付講座		野村証券寄付講座		各1	各2 各2 2	
			インターンシップ基礎		インターンシップ				各2		
			インターンシップ(海外)						2		
進路支援	キャリア基礎(数理) キャリア基礎(言語)			各1						職業選択論 就職準備講座	
	キャリア発展(数理) キャリア発展(言語)								2 1		
教養基礎科目	言葉や思想 に関する領域	哲学 I・II 言語論 I・II (外)日本の思想	論理学 I・II 現代文章論 I・II		教育学 I・II イスラム学 I・II		心理学 I・II 宗教学 I・II		各2	24単位 以上	
	社会や健康 に関する領域	社会学 I・II 健康科学論 I・II 外国文化論(アジア) I・II	経済学 I・II 生涯スポーツの理論と実技 外国文化論(西欧) I・II		法学 I・II スポーツ科学 I・II (外)日本の現在		人文地理学 I・II 日本文化論 I・II (外)日本事情				
	自然や環境に 関する領域	数学 I・II 物質科学 I・II	地球科学 I・II 生命科学 I・II		生態学 I・II 自然地理学 I・II		自然環境論 I・II				
	歴史や文学 に関する領域	文学(日本文学) I・II 歴史学入門(西洋史)	文学(外国文学) I・II 民俗学 I・II		歴史学入門(日本史) I・II 考古学 I・II		歴史学入門(東洋史) 美術史 I・II				
専門基礎科目 (注9)	流通情報 科目	基本統計学 I・II 流通概論 I・II	商業経営論 I・II 情報科学 I・II 国際ビジネス論 I・II データベース論		マーケティング論 I・II システム分析演習 経営戦略論 I・II		OR基礎論 システム設計演習 ソフトウェア設計論 I・II		各2	26単位 以上	
	物流科目		グローバルロジスティクス論 I・II ロジスティクスシステム論 I・II ロジスティクスビジネス論 I・II ロジスティクス管理論 I・II		サプライチェーンマネジメント論 流通情報システム論 I・II ロジスティクス改善演習 消費者物流論 I・II		物流計画論 物流政策論 I・II 災害ロジスティクス論		各2		
	情報科目	インターネット演習 I・II	ソフトウェア概論 I・II ヒューマンインターフェイス論 データサイエンス演習		通信・ネットワーク概論 ネット広告論 プログラミング基礎演習		情報応用システム論 モバイルマーケティング論		各2		
専門実践科目 (注9)		マーケティング実践講座 ロジスティクス実践講座 I・II ダイレクトマーケティング実践講座		ロジスティクス企業訪問講座 国際物流実践講座 IoTロジスティクス実践講座 地域ロジスティクス実践講座		物流マネジメント実践講座 情報システム実践講座		各2	4単位 以上		

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要	
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数		
専門発展科目(注9)	流通情報科目	環境経済論Ⅰ・Ⅱ	流通情報学特殊講義 事業戦略論		消費者行動論Ⅰ・Ⅱ 産業立地論Ⅰ・Ⅱ		組織戦略論 商業診断論		各2	
			情報化社会論Ⅰ・Ⅱ 情報関連法Ⅰ・Ⅱ 地域経済論Ⅰ・Ⅱ まちづくりと法		エルゴノミクス論 生産管理論 広告論Ⅰ・Ⅱ ビジネスゲーム		情報通信事業論 生産情報システム論 市場調査論Ⅰ・Ⅱ 国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ			
			物流科目		物流関係法		貿易実務論Ⅰ・Ⅱ			流通情報特殊講義(物流インフラ論) (旧名称:物流インフラ論(流情特講))
	情報科目	プログラミング応用演習 WEBデザイン演習 データベース演習		情報システム基礎演習 コンピュータグラフィックス演習 経営データ演習		情報システム応用演習 コンピュータアート演習		先端情報科学論Ⅰ・Ⅱ		各2
		経済学(注3)	各2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ		マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ		金融論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ		
				経営学(注4)	各2	会計学Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ		経営情報システム論 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 管理会計論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 経営財務論Ⅰ・Ⅱ 監査論Ⅰ・Ⅱ		
	社会学(注5)	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学論 地域空間論 教育社会学Ⅰ・Ⅱ グローバル化と文化 産業社会学 国際社会学 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ			障害者福祉論 老人福祉論 公的扶助論 経済社会学 開業社会学 余暇社会学 観光心理学 福祉行政と福祉計画論		文化人類学論 対人関係論 社会心理学 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 児童・家庭福祉論 介護福祉論 防災社会学		
			法学(注6)	各2	政治学Ⅰ・Ⅱ 憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ		民法(財産法)Ⅰ・Ⅱ 労働法Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ		商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 国際法Ⅰ・Ⅱ	
	スポーツ健康科学(注7)	社会倫理学Ⅰ・Ⅱ 資源環境論Ⅰ・Ⅱ		防 災 科 学 Ⅰ・Ⅱ		現代女性論Ⅰ・Ⅱ		メディア論Ⅰ・Ⅱ		各2
	教養発展科目	英会話AⅠ・AⅡ		英会話CⅠ・CⅡ		英会話EⅠ・EⅡ				
留学英会話Ⅰ・Ⅱ(注8)		留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)								
選択英語初級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ		選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ				
選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ		選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ		選択ポルトガル語ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ						
		選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ				
				選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語上級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語上級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ				
体育		選択スポーツトレーニング実技Ⅰ・Ⅱ								
教職科目	教師原論 教育心理学 教育社会学概論		教育課程論 特別活動論 生徒指導論 相 容 論 道 徳 教 育		視 聴 覚 教 育 学 教 育 方 法 学					
	各2		各2		各2					
卒業に必要な単位									124単位以上	

左記科目の中から80単位以上を履修しなければならない。(注2)

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
- (特) 印の科目は特別奨学生の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。
- (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DⅠ・DⅡ、(外)日本語EⅠ・EⅡを履修しなければならない。
- (注2) この欄の単位数を合計すると、6単位以上+24単位以上+26単位以上+4単位以上=60単位以上となり、80単位以上にはならない。不足分の20単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
- (注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学Ⅰ・Ⅱ〕から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。
- (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
- (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
- (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
- (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
- (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
- (注9) 「物流マネジメントコース」「国際物流コース」「情報デザインコース」修了認定のための選択科目については履修要綱の「18.コース」のとおりとする。

ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類	
別記1	10	1 単位	漢字検定準2級 秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) ドットコムマスター-BASIC ロジスティクス管理3級
別記2	20	2 単位	漢字検定2級 宅地建物取引士 簿記検定1級 簿記検定2級 販売士1級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定ミクロ・マクロ(Aランク以上) ファイナンシャルプランナー3級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 ITパスポート 医療事務技能審査 ドットコムマスターアドバンスシングルスター
別記3	40	4 単位	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 総合旅行業務取扱管理者 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上) 初級システムアドミニストレーター 基本情報技術者試験 通関士

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要	
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数		
必修科目	1年演習(ゼミ)	4	2年演習(ゼミ)	4	3年演習(ゼミ)(注9)	4	4年演習(ゼミ)(注9)	4	16単位 6単位 12単位	必修科目34単位を履修しなければならない。
	情報基礎Ⅰ・Ⅱ	各2	リベラルアーツ入門	2						
	ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 情報学概論Ⅰ・Ⅱ	各2					卒業研究	4		
外国語(注1)	英語 AⅠ・AⅡ 英語 BⅠ・BⅡ ドイツ語 AⅠ・AⅡ ドイツ語 BⅠ・BⅡ フランス語 AⅠ・AⅡ フランス語 BⅠ・BⅡ 中国語 AⅠ・AⅡ 中国語 BⅠ・BⅡ スペイン語 AⅠ・AⅡ スペイン語 BⅠ・BⅡ 朝鮮(韓国)語 AⅠ・AⅡ 朝鮮(韓国)語 BⅠ・BⅡ ポルトガル語・ブラジル語 AⅠ・AⅡ ポルトガル語・ブラジル語 BⅠ・BⅡ	各1	英語 CⅠ・CⅡ 英語 DⅠ・DⅡ 英語 EⅠ・EⅡ ドイツ語 CⅠ・CⅡ ドイツ語 DⅠ・DⅡ ドイツ語 EⅠ・EⅡ フランス語 CⅠ・CⅡ フランス語 DⅠ・DⅡ フランス語 EⅠ・EⅡ 中国語 CⅠ・CⅡ 中国語 DⅠ・DⅡ 中国語 EⅠ・EⅡ スペイン語 CⅠ・CⅡ スペイン語 DⅠ・DⅡ スペイン語 EⅠ・EⅡ 朝鮮(韓国)語 CⅠ・CⅡ 朝鮮(韓国)語 DⅠ・DⅡ 朝鮮(韓国)語 EⅠ・EⅡ ポルトガル語・ブラジル語 CⅠ・CⅡ ポルトガル語・ブラジル語 DⅠ・DⅡ ポルトガル語・ブラジル語 EⅠ・EⅡ	各1						1カ国語を選択し、10単位を履修しなければならない。
	(外)日本語 AⅠ・AⅡ (外)日本語 BⅠ・BⅡ		各1		(外)日本語 CⅠ・CⅡ (外)日本語 DⅠ・DⅡ (外)日本語 EⅠ・EⅡ	各1				
選 択 必 修 科 目	R K U 入 門	1	R K U 実 践					1	6単位以上	
	キャリアデザイン		キャリアマネジメント	各2						
	キャリア形成		キャリアカウンセリング				(外)ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ	各1		
	海外研修							2		
	資格取得	(別記1)						各1		
		(別記2)						各2		
		(別記3)						各4		
	(特)キャリア特講(基礎)	2	(特)キャリア特講(発展)	2	(特)キャリア特講(職業)	2				
	(特)グローバルコミュニケーション(基礎)	1	(特)グローバルコミュニケーション(発展)	1						
	災害ボランティアⅠ・Ⅱ							各1		
社会・企業研究			日本通運寄付講座Ⅰ・Ⅱ 業界研究特別講座		全国通運連盟寄付講座		野村証券寄付講座	各2		
			インターンシップ基礎		インターンシップ			各2		
			インターンシップ(海外)					2		
進路支援	キャリア基礎(数理) キャリア基礎(言語)			各1						
	キャリア発展(数理) キャリア発展(言語)					職業選択論		2		
						就職準備講座		1		
教養基礎科目	言葉や思想に関する領域	哲学Ⅰ・Ⅱ 言語論Ⅰ・Ⅱ (外)日本の思想	論理学Ⅰ・Ⅱ 現代文章論Ⅰ・Ⅱ		教育学Ⅰ・Ⅱ イスラム学Ⅰ・Ⅱ		心理学Ⅰ・Ⅱ 宗教学Ⅰ・Ⅱ	各2	24単位以上	
	社会や健康に関する領域	社会学Ⅰ・Ⅱ 健康科学論Ⅰ・Ⅱ 外国文化論(アジア)Ⅰ・Ⅱ	経済学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツの理論と実技 外国文化論(西欧)Ⅰ・Ⅱ		法学Ⅰ・Ⅱ スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ (外)日本の現在		人文地理学Ⅰ・Ⅱ 日本文化論Ⅰ・Ⅱ (外)日本事情			
	自然や環境に関する領域	数学Ⅰ・Ⅱ 物質科学Ⅰ・Ⅱ	地球科学Ⅰ・Ⅱ 生命科学Ⅰ・Ⅱ		生態学Ⅰ・Ⅱ 自然地理学Ⅰ・Ⅱ		自然環境論Ⅰ・Ⅱ			
	歴史や文学に関する領域	文学(日本文学)Ⅰ・Ⅱ 歴史学入門(西洋史)	文学(外国文学)Ⅰ・Ⅱ 民俗学Ⅰ・Ⅱ		歴史学入門(日本史)Ⅰ・Ⅱ 考古学Ⅰ・Ⅱ		歴史学入門(東洋史) 美術史Ⅰ・Ⅱ			
専門基礎科目(注9)	流通情報科目	基本統計学Ⅰ・Ⅱ 流通概論Ⅰ・Ⅱ	商業経営論Ⅰ・Ⅱ 情報科学Ⅰ・Ⅱ 国際ビジネス論Ⅰ・Ⅱ データベース論		マーケティング論Ⅰ・Ⅱ システム分析演習 経営戦略論Ⅰ・Ⅱ		OR基礎論 システム設計演習 ソフトウェア設計論Ⅰ・Ⅱ	各2	26単位以上	
	物流科目		グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス管理論Ⅰ・Ⅱ		サプライチェーンマネジメント論 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス改善演習 消費者物流論Ⅰ・Ⅱ		物流計画論 物流政策論Ⅰ・Ⅱ 災害ロジスティクス論			
	情報科目	インターネット演習Ⅰ・Ⅱ	ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ ヒューマンインターフェイス論 データサイエンス演習		通信・ネットワーク概論 ネット広告論 プログラミング基礎演習		情報応用システム論 モバイルマーケティング論			
専門実践科目(注9)		マーケティング実践講座 ロジスティクス実践講座Ⅰ・Ⅱ		ロジスティクス企業訪問講座 国際物流実践講座		物流マネジメント実践講座 情報システム実践講座 ダイレクトマーケティング実践講座	各2	4単位以上		

		1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要	
		授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数		
専門発展科目(注9)	流通情報科目	環境経済論Ⅰ・Ⅱ		流通情報学特殊講義 事業戦略論 流通政策論Ⅰ・Ⅱ 情報化社会論Ⅰ・Ⅱ 情報関連法規 地域経済論Ⅰ・Ⅱ まちづくりと法		消費者行動論Ⅰ・Ⅱ 産業立地論Ⅰ・Ⅱ エルゴノミクス論 生産管理論 広告論Ⅰ・Ⅱ ビジネスゲーム		組織戦略論 商業診断論 情報通信事業論 生産情報システム論 市場調査論Ⅰ・Ⅱ 国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ	各2		
	物流科目			物流関係法Ⅰ・Ⅱ		貿易実務論Ⅰ・Ⅱ		流通情報特殊講義(物流インフラ論) (旧名称:物流インフラ論(流情特講))	各2		
	情報科目			プログラミング応用演習 WEBデザイン演習 データベース演習		情報システム基礎演習 コンピュータグラフィックス演習 経営データ演習 アルゴリズム論		情報システム応用演習 コンピュータアート演習	各2		
	経済学(注3)	日本経済史Ⅰ・Ⅱ 統計学概論Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ	各2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ		マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ		金融論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ	各2		
	経営学(注4)	経営学総論Ⅰ・Ⅱ 簿記論Ⅰ・Ⅱ	各2	会計学Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ		経営情報システム論 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 管理会計論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 経営財務論Ⅰ・Ⅱ 監査論Ⅰ・Ⅱ		ネットワーク経営論 国際小売論 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーファイナンス 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ	各2		
	社会学(注5)	社会調査法 社会調査実践法	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学論 地域空間論 教育社会学Ⅰ・Ⅱ グローバル化と文化 産業社会学 国際社会学 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ		障害者福祉論 老人福祉論 社会的扶助論 経済社会学 開発社会学 余暇社会学 観光心理学 福祉行政と福祉計画論		文化人類学論 対人関係論 社会心理学 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 児童・家庭福祉論 介護福祉論 防災社会学	各2		
	法学(注6)	政治学Ⅰ・Ⅱ	各2	憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ		民法(財産法)Ⅰ・Ⅱ 労働法Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ		商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 国際法Ⅰ・Ⅱ	各2		
	スポーツ健康科学(注7)			スポーツと政治 スポーツマネジメント論 スポーツとメディア スポーツ心理学 コーチング論		スポーツと国際協力学 スポーツ社会学 発育発達老化の理論・実習 体力トレーニング論 健康づくりとジョギング		スポーツと法 スポーツと文化 スポーツ栄養学Ⅰ スポーツ外傷・障害と予防	各2		
	社会倫理学Ⅰ・Ⅱ 資源環境論Ⅰ・Ⅱ			防災科学Ⅰ・Ⅱ		現代女性論Ⅰ・Ⅱ		メディア論Ⅰ・Ⅱ	各2		
	教養発展科目	英会話AⅠ・AⅡ	各1	英会話CⅠ・CⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ			各1		
留学英会話Ⅰ・Ⅱ(注8) 留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)								各1			
選択英語初級Ⅰ・Ⅱ			選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ		選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ	各1			
選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ			選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ		選択ポルトガル語ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ						
			選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ				
					選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語上級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語上級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ				
体育		選択スポーツトレーニング実技Ⅰ・Ⅱ						各1			
教職科目	教師原論 教育心理学 教育社会学概論	各2	教育課程論 特別活動論 生徒指導論 教育相談 道徳教育	各2	視聴覚教育学	各2					
卒業に必要な単位										124単位以上	

左記科目の中から80単位以上を履修しなければならない。(注2)

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
 (特) 印の科目は特別奨学生の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。
 (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DI・DⅡ、(外)日本語EI・EⅡを履修しなければならない。
 (注2) この欄の単位数を合計すると、6単位以上+24単位以上+26単位以上+4単位以上=60単位以上となり、80単位以上にはならない。不足分の20単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
 (注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学Ⅰ・Ⅱ〕から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。
 (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
 (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
 (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
 (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
 (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
 (注9) 「物流マネジメントコース」「国際物流コース」「情報デザインコース」修了認定のための選択科目については履修要綱の「18.コース」のとおりとする。

ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類	
別記1	10	1単位	漢字検定準2級 秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 アクセス検定国内3級 アクセス検定国際3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) ドットコムマスター BASIC ロジスティクス管理3級
別記2	20	2単位	漢字検定2級 宅地建物取引士(旧名称:宅地建物取引主任者) 簿記検定1級 簿記検定2級 販売士1級 アクセス検定国内2級 アクセス検定国際2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定ミクロ・マクロ(Aランク以上) ファイナンシャルプランナー3級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 ITパスポート 医療事務技能審査 ドットコムマスターアドバンスシングルスター
別記3	40	4単位	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 総合旅行業務取扱管理者 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上) 初級システムアドミニストレーター 基本情報技術者試験 通関士

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要	
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数		
必修科目	1年演習(ゼミ)	4	2年演習(ゼミ)	4	3年演習(ゼミ)(注9)	4	4年演習(ゼミ)(注9)	4	16単位 6単位 12単位	必修科目34単位を履修しなければならない。
	情報基礎Ⅰ・Ⅱ	各2	リベラルアーツ入門	2						
	ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 情報学概論Ⅰ・Ⅱ	各2					卒業研究	4		
外国語(注1)	英語 AⅠ・AⅡ 英語 BⅠ・BⅡ ドイツ語 AⅠ・AⅡ ドイツ語 BⅠ・BⅡ フランス語 AⅠ・AⅡ フランス語 BⅠ・BⅡ 中国語 AⅠ・AⅡ 中国語 BⅠ・BⅡ スペイン語 AⅠ・AⅡ スペイン語 BⅠ・BⅡ 朝鮮(韓国)語 AⅠ・AⅡ 朝鮮(韓国)語 BⅠ・BⅡ ポルトガル語・ブラジル語 AⅠ・AⅡ ポルトガル語・ブラジル語 BⅠ・BⅡ	各1	英語 CⅠ・CⅡ 英語 DⅠ・DⅡ 英語 EⅠ・EⅡ ドイツ語 CⅠ・CⅡ ドイツ語 DⅠ・DⅡ ドイツ語 EⅠ・EⅡ フランス語 CⅠ・CⅡ フランス語 DⅠ・DⅡ フランス語 EⅠ・EⅡ 中国語 CⅠ・CⅡ 中国語 DⅠ・DⅡ 中国語 EⅠ・EⅡ スペイン語 CⅠ・CⅡ スペイン語 DⅠ・DⅡ スペイン語 EⅠ・EⅡ 朝鮮(韓国)語 CⅠ・CⅡ 朝鮮(韓国)語 DⅠ・DⅡ 朝鮮(韓国)語 EⅠ・EⅡ ポルトガル語・ブラジル語 CⅠ・CⅡ ポルトガル語・ブラジル語 DⅠ・DⅡ ポルトガル語・ブラジル語 EⅠ・EⅡ	各1						1カ国語を選択し、10単位を履修しなければならない。
	(外)日本語 AⅠ・AⅡ (外)日本語 BⅠ・BⅡ		各1		(外)日本語 CⅠ・CⅡ (外)日本語 DⅠ・DⅡ (外)日本語 EⅠ・EⅡ	各1				
選 択 必 修 科 目	R K U 入 門	1	R K U 実 践					1	6単位以上	
	キャリアデザイン		キャリアマネジメント	各2						
	キャリア形成		キャリアカウンセリング				(外)ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ	各1		
	海外研修							2		
	資格取得	(別記1)						各1		
		(別記2)						各2		
		(別記3)						各4		
	(特)キャリア特講(基礎)	2	(特)キャリア特講(発展)	2	(特)キャリア特講(職業)	2				
	(特)グローバルコミュニケーション(基礎)	1	(特)グローバルコミュニケーション(発展)	1						
	災害ボランティアⅠ・Ⅱ							各1		
社会・企業研究			日本通運寄付講座Ⅰ・Ⅱ 次城県経営者協会寄付講座		全国通運連盟寄付講座 業界研究特別講座		野村証券寄付講座 日本通信販売協会寄付講座	各2		
			インターンシップ基礎		インターンシップ			各2		
			インターンシップ(海外)					2		
進路支援	キャリア基礎(数理) キャリア基礎(言語)			各1						
	キャリア発展(数理) キャリア発展(言語)					職業選択論		2		
						就職準備講座		1		
教養基礎科目	言葉や思想に関する領域	哲学Ⅰ・Ⅱ 言語論Ⅰ・Ⅱ (外)日本の思想	論理学Ⅰ・Ⅱ 現代文章論Ⅰ・Ⅱ		教育学Ⅰ・Ⅱ イスラム学Ⅰ・Ⅱ		心理学Ⅰ・Ⅱ 宗教学Ⅰ・Ⅱ	各2	24単位以上	
	社会や健康に関する領域	社会学Ⅰ・Ⅱ 健康科学論Ⅰ・Ⅱ 外国文化論(アジア)Ⅰ・Ⅱ	経済学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツの理論と実技 外国文化論(西欧)Ⅰ・Ⅱ		法学Ⅰ・Ⅱ スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ (外)日本の現在		人文地理学Ⅰ・Ⅱ 日本文化論Ⅰ・Ⅱ (外)日本事情			
	自然や環境に関する領域	数学Ⅰ・Ⅱ 物質科学Ⅰ・Ⅱ	地球科学Ⅰ・Ⅱ 生命科学Ⅰ・Ⅱ		生態学Ⅰ・Ⅱ 自然地理学Ⅰ・Ⅱ		自然環境論Ⅰ・Ⅱ			
	歴史や文学に関する領域	文学(日本文学)Ⅰ・Ⅱ 歴史学入門(西洋史)	文学(外国文学)Ⅰ・Ⅱ 民俗学Ⅰ・Ⅱ		歴史学入門(日本史)Ⅰ・Ⅱ 考古学Ⅰ・Ⅱ		歴史学入門(東洋史) 美術史Ⅰ・Ⅱ			
専門基礎科目(注9)	流通情報科目	基本統計学Ⅰ・Ⅱ 流通概論Ⅰ・Ⅱ	商業経営論Ⅰ・Ⅱ 情報科学Ⅰ・Ⅱ 国際ビジネス論Ⅰ・Ⅱ データベース論		マーケティング論Ⅰ・Ⅱ システム分析演習 経営戦略論Ⅰ・Ⅱ		OR基礎論 システム設計演習 ソフトウェア設計論Ⅰ・Ⅱ	各2	26単位以上	
	物流科目		グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス管理論Ⅰ・Ⅱ		サプライチェーンマネジメント論 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス改善演習 消費者物流論Ⅰ・Ⅱ		物流計画論 物流政策論Ⅰ・Ⅱ 災害ロジスティクス論			
	情報科目	インターネット演習Ⅰ・Ⅱ	ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ ヒューマンインターフェイス論 データサイエンス演習		通信・ネットワーク概論 ネット広告論 プログラミング基礎演習		情報応用システム論 モバイルマーケティング論			
専門実践科目(注9)		マーケティング実践講座 ロジスティクス実践講座Ⅰ・Ⅱ		ロジスティクス企業訪問講座 国際物流実践講座		物流マネジメント実践講座 情報システム実践講座 ダイレクトマーケティング実践講座	各2	4単位以上		

		1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要		
		授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数			
専門発展科目(注9)	流通情報科目	環境経済論Ⅰ・Ⅱ		流通情報学特殊講義 事業戦略論 流通政策論Ⅰ・Ⅱ 情報化社会論Ⅰ・Ⅱ 情報関連法規 地域経済論Ⅰ・Ⅱ まちづくりと法		消費者行動論Ⅰ・Ⅱ 産業立地論Ⅰ・Ⅱ エルゴノミクス論 生産管理論 広告論Ⅰ・Ⅱ ビジネスゲーム		組織戦略論 商業診断論 情報通信事業論 生産情報システム論 市場調査論Ⅰ・Ⅱ 国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ		各2		
		物流科目		物流関係法Ⅰ・Ⅱ		貿易実務論Ⅰ・Ⅱ		流通情報特殊講義(物流インフラ論) (旧名称:物流インフラ論(流情特講))		各2		
		情報科目		プログラミング応用演習 WEBデザイン演習 データベース演習		情報システム基礎演習 コンピュータグラフィックス演習 経営データ演習		情報システム応用演習 コンピュータアート演習		各2		
	学部共通科目	経済学(注3)	日本経済史Ⅰ・Ⅱ 統計学概論Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ		ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ		マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ		金融論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ		各2	
			経営学(注4)	経営学総論Ⅰ・Ⅱ 簿記論Ⅰ・Ⅱ		会計学Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ		経営情報システム論 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 管理会計論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 経営財務論Ⅰ・Ⅱ 監査論Ⅰ・Ⅱ		ネットワーク経営論 国際小売論 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーファイナンス 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ		各2
		社会学(注5)		社会調査法 社会調査実践法		家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学論 地域空間論 教育社会学Ⅰ・Ⅱ グローバル化と文化 産業社会学 国際社会学 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ		障害者福祉論 老人福祉論 社会的扶助論 公的経済社会学 開発社会学 余暇社会学 国際社会学 福祉行政と福祉計画論		文化人類学論 対人関係論 社会心理学 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 児童・家庭福祉論 介護福祉論 防災社会学		各2
			法学(注6)	政治学Ⅰ・Ⅱ		憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ		民法(財産法)Ⅰ・Ⅱ 労働法Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ		商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 国際法Ⅰ・Ⅱ		各2
		スポーツ健康科学(注7)		社会倫理学Ⅰ・Ⅱ 資源環境論Ⅰ・Ⅱ		防災科学Ⅰ・Ⅱ		現代女性論Ⅰ・Ⅱ		メディア論Ⅰ・Ⅱ		各2
			教養発展科目	外国語	英会話AⅠ・AⅡ		英会話CⅠ・CⅡ		英会話EⅠ・EⅡ		英会話EⅠ・EⅡ	
	留学英会話Ⅰ・Ⅱ(注8) 留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)										各1	
選択英語初級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ			選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ		選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ		各1			
選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ		選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ			選択ポルトガル語ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ		選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ		各1			
		選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ			選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ		各1			
					選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語上級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語上級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ		各1			
体育		選択スポーツトレーニング実技Ⅰ・Ⅱ							各1			
教職科目	教育心理学概論 教育社会学概論 教育徳	教師原論 教育心理学概論 教育社会学概論 教育徳		教育課程論 特別活動論 生徒指導論 教育相談		視聴覚教育学 教育方法学		各2		各2		
		卒業に必要な単位								124単位以上		

左記科目の中から80単位以上を履修しなければならない。(注2)

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
 (特) 印の科目は特別奨学生の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。
 (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DI・DⅡ、(外)日本語EI・EⅡを履修しなければならない。
 (注2) この欄の単位数を合計すると、6単位以上+24単位以上+26単位以上+4単位以上=60単位以上となり、80単位以上にはならない。不足分の20単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
 (注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学Ⅰ・Ⅱ〕から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。
 (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
 (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
 (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
 (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
 (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
 (注9) 「物流マネジメントコース」「国際物流コース」「情報デザインコース」修了認定のための選択科目については履修要綱の「18.コース」のとおりとする。

ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10	1単位
別記2	20	2単位
別記3	40	4単位

履修の手引

履修の手引

この履修要綱は、基本的に春学期入学の学生を対象としたものです。秋学期入学の学生は、別の資料も参照してください。

1. セメスター制

本学では、セメスター制を採用しています。セメスター制とは、学年を春学期と秋学期とに分け、基本的にはそれぞれの学期（セメスター）で単位を修得し、卒業にいたる制度です。

2. 単位制

単位制とは、「教育課程表」に記載されている科目を履修し、科目ごとに定められている単位を修得して、原則として4年間のうちに、卒業に必要な単位を修得する制度です。

(1) 単位の計算方法

単位は、講義科目を基本として1単位あたり45時間の学修を必要とする内容で構成されています。2単位の授業科目は、90時間の学修時間が必要という意味です。この内、1/3は授業時間内の学修に、2/3が授業時間外の予習・復習に当てられています。単位数の多い科目は、予習・復習にそれだけ多くの学修時間をかけなければなりません。

(2) 科目の単位数

科目の単位数は、1単位、2単位、4単位のいずれかであり、「教育課程表」および履修要綱に記載されています。

授業は基本的に週1回行われ、その授業形態によって、下記のように単位数が決められています。

- 1) 演習（ゼミ）：通年の30回の授業で4単位。
- 2) 外国語科目：各学期（春、秋）15回の授業で1単位。
- 3) 体育科目・スポーツ実技科目：各学期（春、秋）15回の授業で1単位。
- 4) 情報科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位。
- 5) 講義科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位。
- 6) 実習科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位。

3. 最高履修単位数

年間の最高履修単位数は下表の通りです。

経済学部	社会学部	流通情報学部	法学部	スポーツ健康科学部
1・2学年 44	3・4学年 49			

- ・ 入学生（スポーツ健康科学部は2010年度以降）の各学期の最高履修単位数は、1・2学年は26単位、3・4学年は28単位です。ただし、1・2学年では年間の最高履修単位数は44単位ですので、片方の学期で26単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は18単位となります。3・4学年では年間の最高履修単位数は49単位ですので、片方の学期で28単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は21単位となります。
- ・ スポーツ健康科学部2009年度の入学生の各学期における最高履修単位数は26単位です。ただし、年間の最高履

修単位数は44単位ですので、片方の学期で26単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は18単位となります。

4. 3 学年進級に必要な単位数

2 学年終了時において、1 年演習（ゼミ）・2 年演習（ゼミ）を含め、40 単位に達している場合に 3 学年への進級を認めます。

- ・「教育課程表」以外の科目で修得した単位は、3 学年進級に必要な単位数には含まれません。
- ・2 年演習（ゼミ）の単位を修得できなかった場合でも、1 年演習（ゼミ）の単位を修得した上で、上記の表で示した単位数を満たしていれば、3 学年へ進級できます。ただし、卒業までに 2 年演習（ゼミ）の単位を修得しなければなりません。なお、2013 年度以降の経営学科入学生は除きます。

5. 卒業

(1) 修業年限

4 年以上在学し、卒業に必要な所定の単位を修得した学生は、「卒業」となります。卒業に必要な所定の単位が修得できずに 4 年の在学年数を超えて在籍する学生は、卒業に必要な単位を修得した学期で卒業となります。~~が、履修登録時に届出をすることにより、卒業に必要な単位を修得した学期で卒業することもできます。~~なお、卒業に必要な単位を満たした上で 4 年を超えて在学することはできません。

秋学期入学の学生も、卒業に必要な修業年限・単位は春学期入学の学生と変わりません。

(2) 学位

卒業した学生には、次の区分に従い「卒業証書・学位記」を授与します。

学部	学科	学位
経済学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
社会学部	社会学科	学士（社会学）
	国際観光学科	学士（社会学）
流通情報学部	流通情報学科	学士（流通情報学）
法学部	ビジネス法学科	学士（法学）
	自治行政学科	学士（法学）
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	学士（スポーツ健康科学）

(3) 副専攻の認定

副専攻に関する所定の要件を満たした学生には、卒業時に「副専攻」を認定します。対象となる学部・学科および入学年度は、次の通りです。

学部・学科	経済		社会	流通情報	法	スポーツ健康科学
	経済	経営				
認定される副専攻	経営学 流通情報学 社会学 法学 スポーツ健康科学	経済学 流通情報学 社会学 法学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 流通情報学 法学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 社会学 法学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 流通情報学 社会学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 流通情報学 法学 社会学

(4) 卒業発表

卒業発表は、毎年3月および9月に行います。電話・メールなどによる問い合わせには応じられません。

(5) 卒業式

卒業が決定した学生は、卒業式に出席し、学生証と引き換えに「卒業証書・学位記」を受け取ってください。

6. 科目の履修

科目の履修に際しては、教室で授業を受けるだけでなく、シラバスや教室での指導に基づいて自主的に予習・復習をしてください。また、指定された参考図書などについても学習してください。

(1) 科目の区分

各学年の学生が履修すべき科目は、「教育課程表」に記載されています。

必修科目：非常に重要度の高い科目であり、指定された学年に必ず履修しなければならない科目です。指定された学年で修得できなかった場合には、原則として次年度に必ず履修しなければなりません。

選択必修科目：必修科目に次いで重要度の高い科目であり、教育課程表の摘要欄に記されている条件を満たすように科目を選択して、履修しなければならない科目です。

選択科目：必ず履修しなければならない科目ではなく、自由に選択して履修することができる科目です。履修すれば卒業単位に算入されます。

自由科目：成績表には記載されますが、卒業単位には算入されない科目です。また、各学年の最高履修単位数にも算入されません。ただし、スポーツ健康科学部の開講科目を他学部から自由科目として履修することはできません。

(2) 履修登録（事前登録）

科目の履修にあたっては、事前に登録をしなければなりません。この登録が完了した時点で、科目の履修が確定し、各自の時間割が決定します。ただし、一部、登録が必要でない科目もあります。

- 1) 各科目の時間割、担当教員等については、3月に発表します。履修ガイダンスに出席し、各自であらかじめ履修したい科目を決めておき、定められた期間に履修登録を行ってください。
- 2) 指定された期間に履修登録手続を怠った場合や誤った登録をした場合、その年度の履修は無効となります。
- 3) 履修登録は、Ring（RKU Interchange for Groups）で行います。

7. 単位の修得

- 1) 履修登録した科目に対してのみ単位の修得が認められます。未登録科目を履修しても単位は与えられません。ただし、別に定めるところにより、単位の修得を認めることがあります（単位の認定）。
- 2) 登録した科目について、「S・A・B・C」いずれかの成績評価が付与された場合に、当該科目の単位の修得が認められます。「D」（不合格）または「/」（評価不能）が付与された場合には、当該科目の単位の修得は認められません。
- 3) 単位は、各学期（春・秋）ごとに与えられます。演習などの通年授業科目の単位は、春学期および秋学期の成績を総合して付与されます（片方の学期だけ履修しても単位は与えられません）。
- 4) 単位を修得できなかった科目については、再履修してください。ただし、必修以外の科目については、別の科目を選択し、履修しても構いません。
- 5) 一度単位を修得した科目（成績の付与された科目）については、再度履修して単位を取り直すことはできま

せん。

8. 休講と補講

休講の案内は、Ringで行います。休講となった場合には補講が行われます。補講は、原則として、当該授業のある曜日の5時限または土曜日の午前・午後（龍ヶ崎キャンパス）、6時限または土曜日の午後（新松戸キャンパス）に行われます。補講の詳細については、Ringに掲載します。

9. 出席調査

授業では出席を調査します。出席調査は、パソコン・スマートフォン・携帯電話、出席カードや提出物等により行います。インターネットやWi-Fiに接続できるパソコン・スマートフォン・携帯電話等を準備してください。

10. 災害時の授業

台風や大雪、あるいは地震などにより大きな災害が発生した場合には、電車やバス等の公共交通機関が運行できなくなる事態が予測されます。その場合には、その都度、授業を実施するか否かを発表しますので、各自以下の方法で確認してください。

- 1) Ring <https://ring.rku.ac.jp/>
- 2) 災害時連絡ダイヤル 0297-64-0009

11. 試験

(1) 定期試験

- 1) 定期の試験として、春学期試験と秋学期試験があります。
春学期試験 7月下旬～8月上旬（約2週間）
秋学期試験 1月下旬～2月初旬（約2週間）
- 2) 試験時間割と注意事項は、各試験の1週間前までに発表しますので、各自で確認してください。

(2) 試験に関する注意事項

- 1) 学生証は必ず携帯し、試験監督者が見やすい場所（机の上）に常に置いてください。学生証を提示しない者は受験できません。学生証を忘れた者は、学生生活課（龍ヶ崎）・学務課（新松戸）で、一日有効の仮学生証（有料）を発行してもらい受験してください。
- 2) 遅刻は、試験開始後20分以内に限り認めます。ただし、試験時間は延長しません。
- 3) 試験場からの退場は、試験開始後30分以内は許可しません。
- 4) 試験中は、携帯情報端末等（携帯電話・スマートフォン・通信機能付き電子辞書等）の電源を切り、カバン、バッグなどの中に入れておいてください。（時計・辞書の代わりにはできません）
- 5) 試験場における行動は、すべて試験監督者の指示に従ってください。**指示に従わない場合は不正行為となります。**
- 6) 試験中（定期試験および定期試験以外）に不正行為があった場合には、「試験規則」第8条により処置します。
不正行為とは、次のような行為です。
 - ・他の学生の答案を見ること。
 - ・他の学生とコミュニケーション（話、目くばせなど）をとること。
 - ・カンニング・ペーパーを持ち込み、それらを見ること。
 - ・許可されていないコピー、テキストなどを持ち込み、それらを見ること。

- ・通信機器を用いて外部と連絡をとること。
- ・あらかじめ机に試験に関する事項を書いておき、それらを見ること。
- ・本人以外の者が代理で受験をすること。
- ・他の学生と物品の貸し借りをすること。
- ・答案用紙を教室外に持ち出すこと。
- ・その他、適正な成績評価を妨げる行為を行うこと。

(3) 追試験

定期試験に欠席した場合には、「試験規則」第4条、第5条により、追試験を願い出ることができます。追試験の願い出は、欠席した試験が行われた日から起算して7日以内に行わなければなりません。できるだけ早い時期に、必要な公的証明書などを添付して、教務課・学務課に申し出てください。入院等により登校できない場合には、教務課・学務課に電話連絡をして指示を受けてください。

(4) 再試験

再試験は原則として行いません。ただし、卒業該当年次生で、卒業に必要な単位が不足する学生に対して、次の要件をすべて満たす場合に限り、再試験の受験を認めることがあります。

- 1) 卒業に必要な単位数が不足する場合、その不足科目が4科目以内であること。ただし、5年以上在籍した学生の卒業に必要な単位数が不足する場合には、その不足科目が6科目以内であること。
- 2) 卒業年次に履修登録が行われている科目であること。
- 3) 出席不良等の理由で評価不能とされた科目でないこと。
- 4) 本人の申請があること。

(5) レポート提出に関する注意事項

担当教員の指示によりレポートを提出するときは、次の事項に注意してください。

- 1) 指示した期限までに指定場所に提出してください。期限後の提出は無効となります。
- 2) 特別の指示のない限り、A4版の用紙を使用し、とじてください。表紙には、科目名、担当教員名、課題、学生番号および氏名を黒インクで明記してください。

12. 不正行為

試験、出席調査、提出物、その他の授業の実施に係る行為において不正をしてはいけません。試験中に不正行為があった場合は、「試験規則」第8条により処置します。また、出席調査、提出物、その他の授業の実施に係る行為において不正があった場合は、「試験規則」第8条に準じて処置することがあります。

13. 成績評価

- 1) 成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、論文、レポート、口述試験、実技テスト）およびその他担当教員の指定する方法によって評価されます。
- 2) 成績は、100点法によって評価され、60点（2012年度以前入学生は50点）以上を合格とし、所定の単位が与えられます。

適用年度	2013年度以降入学生適用			
合格評価	「S」 (90点以上)	「A」 (80点～89点)	「B」 (70点～79点)	「C」 (60点～69点)
不合格評価	「D」 (59点以下) 「/」 (評価不能)			

適用年度	2012年度以前入学生適用			
合格評価	「S」 (90点以上)	「A」 (80点～89点)	「B」 (60点～79点)	「C」 (50点～59点)
不合格評価	「D」 (49点以下) 「/」 (評価不能)			

ただし、100点法によらず単位が認定される科目もあります。

単位認定「R」

- 3) 成績表は各学期終了後に交付します。ただし、通年科目（演習など）はその学年終了後に交付します。
- 4) 成績表は、各学期終了後に保証人（父母）宛に郵送します。
- 5) 成績に関して質問のある学生は、「成績確認願」を教務課・学務課に提出し、その成績の確認を求められます。

14. GPA

本学では、GPA（グレード・ポイント・アベレージ：履修科目の成績の平均値）を算出する制度を定めています。GPAは、学生の学習意欲を高めるとともに、本学が掲げる教育の質の保証についての具体化を進め、適切な修学指導に資することを目的としています。

1) GPAの算出方法

GPAは、GPA対象授業科目のうち、履修登録した科目についてそれぞれの単位数にグレードポイント（4、3、2、1、0のいずれか）をかけ、その合計ポイントを単位数の総和で割ったものとなります。

2) グレードポイント

成績評価に対するグレードポイントは下表の通りです。

S	4
A	3
B	2
C	1
D	0
/	0
R	適用除外

3) GPA対象授業科目と適用除外科目

適用除外科目を除くすべての授業科目がGPAの対象となります。

以下の科目は適用除外科目です。これらの科目にはグレードポイントが付加されず、修得単位や成績はGPAの計算には使用しません。

- 1 合格か不合格だけを判定する授業科目（R認定）
- 2 編入学または転入学した際の単位認定科目
- 3 本学入学前に修得した単位認定科目
- 4 他大学との単位互換等で修得した科目

4) GPAの活用

GPAは、本学大学院の内部推薦基準、特別奨学生の採用基準、また学修指導や退学勧告の資料として利用されます。

15. 単位の認定

本学では、大学での正規の授業以外に、学生のキャリア開発に関連する諸活動や公的機関による資格・検定試験の合格などに単位を認定する制度を整えています。なお、各検定試験の合格証明書は、申請日から過去3年間のものを有効とします（2013年度入学生から適用）。これらについての履修登録は必要なく、それぞれの認定要件を満たした段階で申請すると、単位が認定されます。認定される単位数は、合計で60単位までです。また、認定された単位数（スポーツトレーニング実技を除く）は、学年別の最高履修単位数には含まれません。

(1) 外国語科目の単位認定

公的な機関による下の表に記した検定試験などで基準点以上の成績を修めた者が、所定の手続きを経て、その合格証（成績表・認定証など）を提出した場合には、外国語科目を履修したものとみなし、その単位を認定します。

認定科目と試験の種類			認定単位数				
			1単位認定	2単位認定	4単位認定	6単位認定	8単位認定
英語	英語検定	日本英語検定協会	準2級	2級	準1級		1級
英語	TOEIC	ETS	400点以上	450点以上	550点以上		700点以上
英語	TOEIC Bridge	ETS	150点以上				
英語	TOEFL	ETS		450点以上	500点以上		550点以上
英語	TOEFL IBT	ETS		45点以上	61点以上		79点以上
中国語	中国語検定	日本中国語検定協会		準4級	4級		3級以上
中国語	漢語水平考試	漢語水平考試委員会		2級以上	4級	5級	6級以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定	ドイツ語学文学振興会		4級	3級		2級以上
フランス語	フランス語技能検定	フランス語教育振興協会		4級	3級		2級以上
スペイン語	スペイン語技能検定	日本スペイン協会		6級	5級以上		3級以上
日本語	日本語能力	日本国際教育支援協会	2級、N2	1級、N1			
日本語	J.TEST実用日本語検定	日本語検定協会	600点以上	700点以上			
日本語	日本留学	日本学生支援機構		260点以上			

・ TOEICおよびTOEFLの基準点は変更する場合があります。

・ TOEICには「一般公開テスト」(SP)と「団体特別受験」(IP)の2種類があります。

* 「一般公開テスト」がいわゆるTOEICで、TOEIC運営委員会とアメリカの公的機関であるETS (Educational Testing Service)により正式な認定証が発行されます。

* 「団体特別受験」は各企業・大学が責任をもって実施する試験で、正式な認定証は発行されませんが、TOEIC運営委員会と実施団体による認定証は発行されます。

* 本学では、「一般公開テスト」「団体特別受験」のどちらのスコアでも単位認定の対象とします。

1) 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。

2) 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合

は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。

- 3) 同一の外国語で複数の試験・級に合格した場合は、最上位の試験・級のみが単位認定の対象となります。すでに異なる試験・級・得点により単位認定を受けている場合は、新たに認定を受けられる単位数は、認定済みの単位数を減じた単位数です。

認定を受けられる単位数は、最高で8単位です。

- 4) 認定される外国語科目は学部により異なりますので、教務課・学務課にて確認してください。
- 5) 日本語の単位認定を行う場合は、外国語科目の「日本語」各科目のほか、キャリア科目の「(外) ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ」をも認定科目とした上で、当該学生の単位未修得科目の中から、日本語A・B・C・D各Ⅰ・Ⅱ、(外) ビジネス日本語の順序で単位認定を行うものとします。

(2) スポーツトレーニング実技の単位認定 (スポーツ健康科学部は除く)

重点部に所属する学生について、課外活動状況により「選択スポーツトレーニング実技」を履修したものとみなし、その単位を認定します。

- 1) 対象学生は、ラグビーフットボール部、剣道部(男・女)、柔道部、サッカー部、陸上競技部(長距離)、アメリカンフットボール部、硬式野球部に所属する学生(マネージャーは除く)です。
- 2) 単位認定を希望する学生は、所定の申請書を作成し、所属する部に提出してください。各部で集約した申請書は、体育指導センターを通して、教務課へ提出されます。
- 3) 単位の認定は、①重点部の活動状況、②部活動への出席状況、③部の練習態度、④部の戦績などをチェックして、体育指導センターが原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- 4) 1学年の春学期に1単位、秋学期に1単位を認定します。1学年で認定されなかった場合には、それ以降の学年で単位認定を申請することができます。

(3) 法学関連科目の単位認定

法学検定およびビジネス実務法務検定試験に合格した学生に、下記の通り単位の認定をします。

認定科目と検定試験の種類		認定単位数	4単位認定	6単位認定	8単位認定
(法学部の2008年度~2012年度入学生)	(法学部の2013年度以降入学生)	法学検定	ベーシック <基礎> コース (旧4級)	スタンダード <中級> コース (旧3級)	アドバンス <上級> コース (旧2級)
スポーツと法 I・II	スポーツと法				
法と文化(アジア) I・II	法学特殊講義(私法) I・II	ビジネス 実務法 務検定	3級	2級	1級
法と文化(欧米) I・II	法学特殊講義(公法) I・II				
現代社会と法 I・II	現代社会と法 I・II				
(経済・社会・流通情報学部の学生)	法学特殊講義 I・II				
学部共通科目の法学分野の科目		東京 商工 会議所			

- 1) 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。
- 2) 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。

- 3) 法学部の学生については、上の表に示した科目から認定します。
- 4) 経済・社会・流通情報学部の学生については、学部共通科目の法学分野の科目から認定します。スポーツ健康科学部の学生のうち、2009年度以前の入学生については、副専攻科目・法学の各科目から、2010年度以降の入学生については、学部共通科目の法学分野の科目から、それぞれ認定します。
- 5) 同一の検定試験で複数の級に合格した場合には、上位の級のみが単位認定の対象となります。異なる級の合格によりすでに単位認定を受けている場合は、新たに認定を受けられる単位数は、認定済みの単位数を減じた単位数とします。
- 6) 認定を受けられる最高単位数は、総計8単位とします。

(4) 外国留学

本学の「留学に関する規則」に基づき、外国留学をした学生（外国人留学生を除く）に、留学中の学修内容を審査した上で、教育課程表にある科目の単位認定を行います。

- 1) 外国留学を希望する学生は、留学2ヶ月前までに「留学願」を学長に提出し、国際交流センターの承認を受けてください。
- 2) 単位認定を希望する学生は、留学先からの「出席状況および成績に関する証明書」、「修了証」等を添付し、「単位認定願」を学長に提出してください。
- 3) 単位の認定は、国際交流センターの小委員会が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- 4) 留学期間中の「演習」については、担当教員と留学者がインターネット等を利用しながら、相互に緊密な連絡を取り合ってください。担当教員は留学者に対して必要な教育、指導を行い、単位を付与します。演習の単位は認定単位には含めません。
- 5) 外国留学をした学生には、「海外研修」(2単位)の単位認定も行われます。

(5) キャリア科目の単位認定

一部のキャリア科目について単位認定を行いません（スポーツ健康科学部は2010年度以降の入学生）。

- 1) 単位認定を行う科目には、「R K U入門」、「R K U実践」、「海外研修」、「インターンシップ（海外）」、「就職準備講座」、資格関連科目である「資格一般」、「資格基礎」、「資格専門」があります。
- 2) 単位認定の方法、認定単位数などについては、「履修の方法」のキャリア科目の項を参照してください。

16. 他キャンパス受講

原則として週1日に限り、他キャンパスで開講される科目の受講を認めることがあります。他キャンパス受講を希望する学生は、履修登録時に教務課・学務課に申請してください。

17. キャンパス変更（スポーツ健康科学部は除く）

所定の要件を満たした場合に限り、所属するキャンパスの変更を認めることがあります。キャンパス変更を希望する学生は、教務課・学務課に申請してください。なお、2015年度以前入学の留学生は3学年進級時に、所属するキャンパスを選択することができます。

18. 履修の方法【2016年度・2015年度・2014年度・2013年度の入学生】

ここでは授業科目の履修方法について説明します。「教育課程表」を見ながら、該当する箇所をよく読んで履修してください。なお「教育課程表」は、学科、入学年度によって異なる場合があります。自分の所属する学科、入学年度に該当する「教育課程表」を参照してください。また、外国人留学生は、外国人留学生を対象とした説明もよく読んでください。

(1) 必修科目

必修科目とは、定められた配当年次において必ず履修しなければならない授業科目です。

1) 演習（ゼミ）

(a) 1年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成し、所属クラスは入学時に指定します。1年演習（ゼミ）の未修得者は3学年に進級できません。

(b) 2年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成します。2年演習（ゼミ）の選択は、1学年の秋学期に行います。各演習（ゼミ）の指導計画を選択申込の前に発表します。それらを熟読の上、自由に選択してください。また相談期間を設けますので、希望する演習（ゼミ）の担当教員に相談することもできます。演習（ゼミ）によっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどにより、担当教員が履修者を選考することがあります。第1希望のクラスに入れなかった場合には、2回目の選択申込により、定員に満たないクラスの中から、履修するクラスを決定することになります。

(c) 3年演習（ゼミ）

4年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成します。3学年、4学年を通じて、同じ教員の演習（ゼミ）を履修します。演習（ゼミ）の選択は、2学年の秋学期に行います。演習（ゼミ）の決定方法は、上記の「2年演習（ゼミ）」の場合と同様です。3年演習（ゼミ）と4年演習（ゼミ）は、原則として同一学年で履修することはできません。演習（ゼミ）の単位を修得できなかった場合には留年となります。

「物流マネジメントコース」／「国際物流コース」を選択する学生は、3年、4年演習（ゼミ）において「物流マネジメントゼミ」／「国際物流ゼミ」を選択しなければなりません。「情報デザインコース」を選択する学生は、3年、4年演習（ゼミ）において「情報デザインゼミ」を選択しなければなりません。

2) 教養コア科目および情報科目

1学年において、「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を履修します。「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」は指定されたクラスで履修してください。2学年において、「リベラルアーツ入門」を履修します。履修方法については、別途詳細をお知らせします。

3) 専門コア科目

1学年において、「ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）、「情報学概論Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を履修します。

4) 卒業研究

4学年秋学期の指定された期日に、卒業研究を教務課・学務課に提出してください。演習（ゼミ）の担当教員が「卒業研究」（4単位）の指導を行い、学部の全教員が審査し、単位の認定を行います。

(2) 選択必修科目と選択科目

選択必修科目とは、指定された単位数を複数の授業科目の中から選択して履修する授業科目のことです。これに対して選択科目は、単位数に関する規定はなく、自由に選択して履修できる授業科目のことです。

卒業に必要な選択必修科目と選択科目の合計は80単位以上であり、後述の「**選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項**」を確認してください。

(ア) 選択必修科目

1) 外国語科目

- (a) 1学年と2学年において、入学前に選択した一つの外国語を学修します。指定されたクラスで履修してください。

選択できる外国語は、下記の通りです。(いずれも各1単位)。

「英語A I・A II、英語B I・B II、英語C I・C II、英語D I・D II、英語E I・E II」

「ドイツ語A I・A II、ドイツ語B I・B II、ドイツ語C I・C II、ドイツ語D I・D II、ドイツ語E I・E II」

「フランス語A I・A II、フランス語B I・B II、フランス語C I・C II、フランス語D I・D II、フランス語E I・E II」

「中国語A I・A II、中国語B I・B II、中国語C I・C II、中国語D I・D II、中国語E I・E II」

「スペイン語A I・A II、スペイン語B I・B II、スペイン語C I・C II、スペイン語D I・D II、スペイン語E I・E II」

「朝鮮(韓国)語A I・A II、朝鮮(韓国)語B I・B II、朝鮮(韓国)語C I・C II、朝鮮(韓国)語D I・D II、朝鮮(韓国)語E I・E II」

「ポルトガル語・ブラジル語A I・A II、ポルトガル語・ブラジル語B I・B II、ポルトガル語・ブラジル語C I・C II、ポルトガル語・ブラジル語D I・D II、ポルトガル語・ブラジル語E I・E II」

各外国語とも、1学年においては、A I・A II、B I・B IIの4科目(各1単位、計4単位)を、2学年においては、C I・C II、D I・D II、E I・E IIの6科目(各1単位、計6単位)を履修します。

- (b) 外国人留学生は、1学年において「(外)日本語A I・A II」、「(外)日本語B I・B II」(各1単位)の4単位、2学年において「(外)日本語C I・C II」、「(外)日本語D I・D II」、「(外)日本語E I・E II」(各1単位)の6単位を履修します。

2) キャリア科目

キャリア科目から選択して、6単位以上を履修します。

(a) RKU入門

入学直後に行われる導入教育である「RKU入門」に出席した学生にその単位を認定します。

- ① 単位の認定は、「RKU入門」の中で行われるゼミ、ガイダンスその他各種の講座への出席を前提に、ゼミ担当教員が行います。
- ② 本授業は、すべての学生が履修することを原則とします。
- ③ 1学年の春学期に1単位を認定します。

(b) RKU実践

日常のボランティア活動に対して、所定の要件を満たした場合に単位を認定します。

- ① 対象となるボランティア活動は、大学が認める無報酬の活動です。
- ② 活動の3週間前に「RKU実践活動届」を教務課・学務課に提出してください。
- ③ ボランティア活動の実働3時間を1ポイントとし、合計15ポイントで1単位認定します。ただし、1日2ポイントまでとし、単位認定は在学中1回限りです。
- ④ ボランティア活動参加者は、参加のつど「RKU実践活動報告書」を別途定める証明部門に提出し、「RKU実践活動証明書」を受け取り保管しておきます。
- ⑤ 単位認定を希望する場合は、「RKU実践単位申請書」に15ポイント分の「RKU実践活動証明書」を添えて学務課・教務課へ提出してください。
- ⑥ 単位認定は、秋学期定期試験終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験終了時まで申請のあった場合は春学期に行います。

(c) 海外研修

「留学に関する規則」に基づき、「海外研修」2単位を認定します。

(d) 資格取得

大学開設の課外講座が対象とする資格・検定試験に合格した者に単位を認定します。

- ① 資格・検定試験の種類により、10ポイントを1単位として入学年度別教育課程表の「資格・検定試験の種類」にある単位を認定します。
- ② 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものには、次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。
- ③ 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。
- ④ 卒業単位として認められる単位は最大20単位です。

(e) 災害ボランティアⅠ・Ⅱ

東日本大震災などの災害発生に関する災害ボランティア活動の参加者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定します。(ただし、社会学科は除きます。)

- ① 災害ボランティア活動が45時間相当の場合は1単位、90時間相当の場合は2単位を認定します。
- ② 単位認定を希望する場合は、事前に学生生活課へ「災害ボランティア活動届」を提出し、活動終了後「災害ボランティア単位認定申請書」に「ボランティア活動日誌」「ボランティア活動証明書」(受け入れ機関・団体の証明)を添えて学務課・教務課へ提出してください。

(f) 就職準備講座

主として3学年を対象に行われているもので、あらかじめ指定した就職支援センター主催の就職支援プログラムへの出席をもって単位を認定します。

- ① 単位の認定は、就職支援センター内「就職委員会」が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- ② 1学年からの累積出席回数が、2/3を超えた学生が対象となります。
- ③ 3学年の秋学期に1単位を認定します。

3) 教養基礎科目

教養基礎科目から選択して、24単位以上を履修します。

4) 専門基礎科目

流通総合科目（2013～2015年度入学生は「流通情報科目」）、物流科目、および情報科目が開講されています。これらの科目から26単位以上を履修します。

5) 専門実践科目

実践講座および企業訪問講座が開講されています。これらの科目から4単位以上を履修します。

(イ) 選択科目

1) 専門発展科目

流通総合科目（2013～2015年度入学生は「流通情報科目」）、物流科目、情報科目が開講されています。

2) 学部共通科目と副専攻

学部共通科目には、所属学部・学科の学問分野（これを主専攻とよびます）とは別の、下記の各学問分野の科目（他の学部・学科の専門基礎・発展科目に当たる科目です）が置かれています。主専攻の枠を超えて他の学問分野の科目をも履修することで複数の学問分野を学修することにより、現代社会が求めている複眼的な視野と能力を養い、個性あふれる人材を育成することを目的としています。

学部共通科目の学問分野

- ・ 経済学
- ・ 経営学
- ・ 社会学
- ・ 法学
- ・ スポーツ健康科学

学部共通科目は、いくつかの学問からでも、一分野ごとの履修単位数の上限もなく、自由に履修することができます。

一つの学問分野から20単位以上を修得した場合には、卒業時にその分野の「副専攻」を修了したことの認定を受けることができます（卒業年次の履修登録のときに申請が必要です）。

なお、スポーツ健康科学の各科目は、龍ヶ崎キャンパスでのみ開講されます。したがって、新松戸キャンパス所属の学生がこの科目を履修するには「他キャンパス受講」制度によらなければなりません。

3) 教養発展科目・外国語科目・体育科目

教養発展科目、外国語関係の科目と体育の実技科目が用意されています。興味のある学生は積極的に履修してください。

4) 教職科目

教職免許取得に必要な科目であって、課程表に記載されているものについては、20単位まで卒業単位数に算入することができます。

[選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項]

外国語科目を除いて、選択必修科目と選択科目を合計して、80単位以上を履修しなければなりません（「教育課程表」摘要欄の後の列を参照してください）。しかし、指定された単位数の合計は60単位となり、その単位数とはなりません（「教育課程表」摘要欄の前の列を参照してください）。その不足単位数である20単位は、選択必修科目と選択科目の中から、各自が自由に選んで履修できる単位数です。

* 「教育課程表」の摘要欄と注の部分を熟読してください。

19. 卒業に必要な総単位数

卒業するのに必要な必修科目、選択必修科目、選択科目の合計単位数は、以下の通りです。

流通情報学科（2016・2015・2014・2013年度の入学生）

授 業 科 目		修 得 す べ き 単 位 数		
必修科目	演習	16単位	} 34単位	
	教養コア科目・情報科目	6単位		
	専門コア科目・卒業研究	12単位		
選択必修科目	外国語	10単位	} 80単位	
	キャリア科目	キャリア形成		6単位
		社会・企業研究		
		進路支援		
	教養基礎科目			24単位
	専門基礎科目	流通総合科目（※）		26単位
		物流科目		
		情報科目		
	専門実践科目			4単位以上
	選択科目	専門発展科目		流通総合科目（※）
物流科目				
情報科目				
学部共通科目		経済学		
		経営学		
		社会学		
		法学		
		スポーツ健康科学		
教養発展科目		教養発展科目		
		外国語		
		体育		
教職科目				
合 計		124単位		

※ 2013～2015年度入学生は「流通情報科目」

20. 資格の取得について

(1) 教員免許

中学校や高等学校などの教員資格を取得するための案内は、別冊「教職課程履修の手引き」を参照してください。

(2) 物流技術管理士補

日本ではロジスティクス関連の代表的な資格として、中央職業能力開発協会(JAVADA)によるロジスティクス管理と日本ロジスティクスシステム協会による物流技術管理士があります。

2015年度から、流通経済大学の学部生、大学院生が、日本ロジスティクスシステム協会による物流技術管理士の入り口資格である物流技術管理士補の資格を取得できるようになりました。流通情報学部流通情報学科カリキュラムの指定された科目について、一定単位数以上の単位を修得している者、あるいは当該年度に修得見込みである者は、日本ロジスティクスシステム協会が実施する物流技術管理士補スクーリング(2日間)を受講修了することにより、物流技術管理士補の資格を取得できます。なお、物流技術管理士補スクーリング受講者については人数制限があります。応募者が多数の場合は、該当科目の成績等を勘案して選抜します。

指定科目、必要な単位数は以下の通りです。

「物流技術管理士補」資格 必要単位数

ロジスティクス概論、情報学概論、ロジスティクスシステム論、ロジスティクスビジネス論、ロジスティクス管理論、サプライチェーンマネジメント論、流通情報システム論、ロジスティクス改善演習、物流計画論、消費者物流論から18単位以上を修得していること。なお、申し込み時において、4単位までの単位修得見込み科目(履修登録していることが条件となる)を含めることは認める(すなわち申し込み時に14単位以上は修得済みであることが必要)。

希望者は指定された期日までに龍ヶ崎教務課、新松戸学務課に申し込みをしてください。「物流技術管理士補スクーリング」は、2月と7月、年2回開催されます。スクーリング2日間とも出席し、課題レポートを提出することが資格授与の条件となっています。また、受講料は¥35,000(予定、税別、本学学生の特別料金)となっています。「物流技術管理士補スクーリング」の詳細は、日本ロジスティクスシステム協会のホームページで確認してください。

(3) 商業施設士補

『商業施設士補』資格とは、商業施設の企画・設計・デザイン・監理等関する知識を有していることを証した資格制度です。流通情報学部流通情報学科カリキュラムの指定された科目について、一定単位数以上の単位を取得している者、あるいは当該年度に取得見込みである者は、商業施設士補資格講習会(1日間)を受講修了することにより資格を取得できます。指定科目、必要な単位数は以下の表で確認してください。

『商業施設士補』資格 教科カリキュラム 必要単位数

【A群】の科目を30単位以上(ただしA-2の科目を2単位以上)取得し、かつ【B群】の科目を4単位以上取得していることが必要となります。

【A群】

区分	内容	充当する教科名	単位数	必要単位数
A-1 商業一般	商業一般に関する科目	流通概論Ⅰ・Ⅱ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 国際ビジネス論Ⅰ・Ⅱ モバイルマーケティング論 ネットワーク経営論 広告論Ⅰ・Ⅱ ネット広告論 情報学概論Ⅰ・Ⅱ 消費者行動論Ⅰ・Ⅱ 会計学総論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ 消費者物流論Ⅰ・Ⅱ	各2	「A-1 商業一般」 「A-2 業態計画」 の科目について、 合計30単位以上 取得していること。 かつ、「A-1 商業 一般」だけでなく、「A-2 業態計 画」についても 2単位以上取得 していること。
A-2 業態計画	商業施設の構成に関する科目	流通政策論Ⅰ・Ⅱ 流通史Ⅰ・Ⅱ 商業経営論Ⅰ・Ⅱ まちづくりと法	各2	

【B群】

区分	内容	充当する教科名	単位数	必要単位数
B 文章表現	プレゼン・マーケティング・コンサルにより、商業施設を構想し表現することに関する科目	商業診断論 マーケティング実践講座 システム分析演習 システム設計演習 データサイエンス演習 事業戦略論 実践経営学講座 経営データ解析／経営データ演習	各2	「B 文章表現」の 科目について、 4単位以上取得 していること。

(4) 社会福祉主事（任用資格）

厚生労働大臣の指定する科目を修めて卒業した者に与えられる任用資格であり、流通情報学部では以下の科目から3科目以上を履修し卒業した者に与えられます。

「社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ」、「公的扶助論」、「老人福祉論」、「障害者福祉論」、「地域福祉論Ⅰ・Ⅱ」、「介護福祉論」、「福祉行財政と福祉計画論」、「法学Ⅰ・Ⅱ」、「心理学Ⅰ・Ⅱ」、「社会学Ⅰ・Ⅱ」

(5) 公益社団法人 日本体育協会「公認スポーツ指導者」について

日本体育協会は、国民のスポーツ振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上をはかり、指導活動の促進と指導体制を確立、総合型地域スポーツクラブでのスタッフの育成を図るため、「（財）日本体育協会公認スポーツ指導者制度」を制定しています。

将来、スポーツ指導者、総合型地域スポーツクラブでのスタッフ等を目指す学生は、日本体育協会資格一覧の

資格を取得することが望めます。

「共通科目Ⅰ・Ⅱ」の修了証は下記の表に示す科目の単位を取得し、申請を行ったものが取得できます。また、「共通科目Ⅰ・Ⅱ」の修了証の申請と同時に、「スポーツリーダー」の資格取得が同時にできます。

2010年度以降入学生

No.	科目名	単位数
1	スポーツと文化	2
2	コーチング論	2
3	スポーツと法	2
4	トレーニング論	2
5	発育発達老化の理論・実習	2
6	スポーツ栄養学Ⅰ	2
7	スポーツ社会学	2
8	スポーツ外傷・障害と予防	2
9	スポーツ心理学	2
10	スポーツマネジメント論	2

これらの申請は、卒業年次のみにしか受け付けることができません。卒業後の申請は、いかなる理由であれ認められませんので、注意してください。申請には別途申請料を徴収します。

日本体育協会が認定する様々な資格を取得するためには、日本体育協会が開催する講習会等に出席し、各専門科目を取得する必要があります。

資格の詳細は、日本体育協会のホームページで確認してください。

<http://www.japan-sports.or.jp/>

日本体育協会資格一覧

スポーツ指導基礎資格

(h=時間)

資格	内容	要件
スポーツリーダー	・ 地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。	共通I

競技別指導者資格

資格	内容	要件
指導員	・ 地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子どもたちや初心者を対象に、競技別の専門知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた指導にあたる。	共通I 専門:40h以上
上級指導員	・ 地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。 ・ 事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割を担う。	共通I+II 専門:20h以上
コーチ	・ 地域において、競技者育成のための指導にあたる。 ・ 広域スポーツセンターや各競技別のトレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたる。	共通I+II+III 専門:60h以上
上級コーチ	・ ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代で選抜された競技者の育成強化にあたる。	共通I+II+III+IV 専門:40h以上
教師	・ 商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として、質の高い実技指導を行う。	共通I+II+III 専門:80h以上
上級教師	・ 商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として質の高い実技指導を行う。 ・ 会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。	共通I+II+III+IV 専門:60h以上

フィットネス系資格

資格	内容	要件
ジュニアスポーツ指導員	・ 地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通じた身体づくり、動きづくりの指導を行う。	共通I 専門:40h
スポーツプログラマー	・ 主として青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。	共通I+II 専門:63h

メディカル・コンディショニング系資格

資格	内容	要件
アスレティックトレーナー	・ スポーツドクター及びコーチとの緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・障害の救急処置、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等にあたる。	共通I+II+III 専門:600h
スポーツ栄養士	・ スポーツ活動現場において、競技者の栄養・食事に関する専門的なサポートにあたる。 ・ 競技者の栄養・食事に関する自己管理能力を高める栄養教育を行う。	共通I+II+III 専門:116.5h

マネジメント資格

資格	内容	要件
アシスタントマネジャー	・ 総合型の地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネジャーを補佐し、クラブマネジメントのための諸活動をサポートする。	共通I 専門:35h
クラブマネジャー	・ 総合型の地域スポーツクラブなどにおいて、クラブの経営資源を有効に活用し、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう健全なマネジメントを行う。	共通I 専門:167.5h

21. コース【2008年度以降の入学生】

2008年度入学生は、「物流マネジメントコース」／「国際物流コース」を選択することができます。2009年度以降の入学生は、「物流マネジメントコース」／「国際物流コース」／「情報デザインコース」を選択することができます。各コースの所定の単位を取得し、所定の要件を満たした場合は、卒業時にコースを修了した旨が認定されます。

なお、コースを選択・修了しなくても、卒業に必要な単位を取得すれば卒業することができます。コースを選択しない学生は、「18. 履修計画と履修モデル」にある履修モデルを参考に履修計画を行ってください。

・ 「物流マネジメントコース」／「国際物流コース」／「情報デザインコース」を修了するためには、コースご

とに指定された科目から所定の単位を取得し、所定の要件を満たさなければなりません。

- ・ 1 学年、2 学年では、コース選択の申請や手続きはありません。ただし、コース科目は 1 学年より配当されていますので、コース選択者および予定者はコース科目を中心に履修登録をしてください。

<物流マネジメントコース>

物流マネジメントコースは、我が国唯一のビジネス系の物流、ロジスティクスを専門的に扱うコースです。経済、産業活動において、物流は欠かせないものです。さらに、ロジスティクスの考え方は、各企業の経営戦略において、欠かせない視点と言えます。

物流マネジメントコースは、このような物流、ロジスティクスの考え方を、専門的に学ぶコースです。しかしながら、物流、ロジスティクスの考え方は、一般的な講義形式だけでは、なかなか理解しにくいという面があります。物流、ロジスティクスを理解するには、実際の企業の動きを見て、実践的に学ぶことが欠かせません。

物流マネジメントコースでは、各企業で、物流、ロジスティクスに携わっている講師を迎えての実践講座、寄付講座、さらに企業の物流現場を訪れる企業訪問講座といった科目を多数設けています。さらに各講義、演習科目でも、企業講師を迎えて、常に実際の企業の動きを肌で感じ、実践的に学ぶことが可能なカリキュラムが特徴となっています。

物流マネジメントコースは、将来、

- ・ 物流、ロジスティクスに興味があり、物流企業を目指す人
- ・ 物流企業の経営者を目指す人
- ・ メーカー、卸売業、小売業等の物流、ロジスティクス部門を目指す人
- ・ 企業経営に興味のある人

に最適なコースです。

物流マネジメントコース科目と要件

下表の要件を満たし、選択科目から24単位以上を取得しなければなりません。

要件	選択科目 (24単位以上)
ロジスティクス総合テスト合格 (テストは共通テストと物流マネジメント コース向けテストの2種。ロジスティクス 管理3級合格者は、後者を免除)	流通概論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス改善演習 物流関係法Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス実践講座Ⅰ・Ⅱ 情報システム実践講座 日本通運寄付講座Ⅰ・Ⅱ サプライチェーンマネジメント論 物流計画論 物流政策論Ⅰ・Ⅱ 災害ロジスティクス論 ロジスティクス企業訪問講座 物流マネジメント実践講座 全国通運連盟寄付講座 消費者物流論Ⅰ・Ⅱ IoTロジスティクス実践講座 地域ロジスティクス実践講座

<国際物流コース>

国際物流コースは、我が国唯一のビジネス系の国際物流、グローバルロジスティクスを専門的に扱うコースです。経済がグローバル化するなか、国際物流、グローバルロジスティクスは、企業活動において、とても重要な役割を果たしています。

国際物流は、このような国際物流、グローバルロジスティクスの考え方を専門的に学ぶコースです。物流、ロジスティクスの考え方は、一般的な講義形式では、なかなか理解しにくいという面があります。物流、ロジスティクスを理解するには、実際の企業の動きをみて、実践的に学ぶことが欠かせません。

国際物流コースでは、物流マネジメントコース同様に、各企業で、物流、ロジスティクスに携わっている講師を迎えての実践講座、寄付講座、さらに企業の物流現場を訪れる企業訪問講座といった科目を多数設けています。さらに各講義、演習課題でも、企業講師を迎えて、常に実際の企業の動きを肌で感じ、実践的に学ぶことが可能なカリキュラムが特徴となっています。

国際物流コースは、将来、

- ・世界中を飛び回り、国際物流に携わりたい人
- ・貿易業務に携わりたい人
- ・物流、ロジスティクスに興味があり、物流企業を目指す人
- ・留学生で、日本企業に勤めて貿易関連の仕事を目指す人

に最適なコースです。

国際物流コース科目

下表の要件を満たし、選択科目から24単位以上を取得しなければなりません。

要件	選択科目(24単位以上)
ロジスティクス総合テスト合格 (テストは共通テストと国際物流コース向けテストの2種)	流通概論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス改善演習 物流関係法Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス実践講座Ⅰ・Ⅱ 情報システム実践講座 日本通運寄付講座Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス企業訪問講座 物流ターミナル論Ⅰ・Ⅱ 貿易実務論Ⅰ・Ⅱ 物流政策論Ⅰ・Ⅱ 災害ロジスティクス論 国際物流実践講座 消費者物流論Ⅰ・Ⅱ 資格関連科目(資格専門)通関士 IoTロジスティクス実践講座

＜情報デザインコース＞

現代のインターネット社会では、基本・応用ソフトの操作といった「情報を使う」能力に加えて、ゲームやWEBアプリなどのソフトの設計・開発である「情報を創る」能力、WEBデザインやプレゼンテーションなどの「情報を伝える」能力、e-ビジネスにおけるマーケティングなどの「情報を活かす」能力が重要視されています。情報デザインコースでは、豊富な実習形式により、実際に手を動かして自らが情報をクリエイトすることによって、インターネット、パソコン、携帯電話やコミュニケーションなどに含まれるさまざまな情報を「創る」「伝える」「活かす」能力を身につけることができます。

情報デザインコースは、将来、

- ・ ゲームやWEBアプリ開発など、ソフトクリエイターを目指す人
- ・ ITビジネスの企業家を目指す人
- ・ IT企業のシステムエンジニアを目指す人
- ・ WEBデザインや商品デザインの分野で活躍したい人
- ・ インターネットによる商品取引やマーケティングの分野で活躍したい人

に最適なコースです。

情報デザインコース科目

下表の情報関係の資格関連科目から2単位以上、選択科目から24単位以上を取得しなければなりません。

情報関連の資格(2単位以上)	選択科目(24単位以上)
資格関連(資格一般)	情報システム実践講座
日商PC(文書作成)3級	インターネット演習(2012年度入学生まで)
日商PC(データ活用)3級	データベース基礎(2012年度入学生まで)
日商PC(プレゼン資料作成)3級	インターネット演習I・II(2013年度入学生より)
MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word)	ソフトウェア概論I・II
MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel)	通信・ネットワーク概論
ドットコムマスターBASIC	ネット広告論
資格関連(資格基礎)	モバイルマーケティング論
日商PC(文書作成)2級	ヒューマンインターフェイス論
日商PC(データ活用)2級	アルゴリズム論
日商PC(プレゼン資料作成)2級	情報応用システム論
ITパスポート	データサイエンス演習
ドットコムマスターアドバンスシングルスター	データベース演習
資格関連(資格専門)	プログラミング基礎演習
初級システムアドミニストレーター	プログラミング応用演習
基本情報技術者試験	情報システム基礎演習
	情報システム応用演習
	コンピュータグラフィックス演習
	コンピュータアート演習
	WEBデザイン演習

22. 卒業研究

(1) 科目のねらい

卒業研究は、流通情報学部での講義・演習を集大成する科目です。卒業研究の担当教員は、流通情報学部の全教員であり、「4年専門演習」および「ロジスティクス・専門演習II」の担当教員が指導教員を務めます。卒業研究とは、流通情報学部の学生ひとりひとりが、流通情報の専門家として問題意識を持ち、その問題を既に習得した知識により検討可能かどうかを見極め、その問題について科学的・論理的手法を用いて接近し、調査・実験・比較・検討等を行い、有益な結論を導き、結果を広く内外に発表するものです。

さらに、この過程を経験することにより、将来の社会生活の場における問題発見、解決およびプレゼンテーションの礎を築くことが、卒業研究の目的です。

したがって、卒業研究の内容は、十分な学問的検討がなされていなければなりません。また、研究した内容を簡潔にまとめ、その目的、内容、結果を他者にわかりやすく伝える技術（プレゼンテーション技術）も評価の対象となります。

(2) スケジュール

卒業研究に関するスケジュールは以下の通りです。

4 学年春学期中	卒業論文タイトルの提出 (Webへの登録)
12月上旬	卒業論文の提出 (印刷物1部とWebへの登録)
12月中旬	卒論要旨の提出 (印刷物1部とWebへの登録)
12月下旬または1月上旬	発表会（オンスクリーン・プレゼンテーション注1）

提出物の書式などの詳細およびデジタル媒体の提出方法、詳しい日程については、後日掲示します。

注1：コンピュータによる発表支援ツールを用いた発表形式

(3) 成績の評価方法

卒業研究は、卒業論文とその発表（プレゼンテーション）で評価します。

卒業研究は、その内容に加え、

- ① 提出期日の遵守
- ② 指定書式の遵守
- ③ 論文の体裁

についても評価します。なお、論文は「卒業研究提出に関する注意事項」に示す表紙および後日掲示する卒業研究の作成上の注意に従い、~~Webへの登録と印刷物1部~~を提出してください。

発表では、

- ① 発表予定時刻に発表準備が整っていたか
- ② 発表時間内に表題、目的、方法、結論などを説明できたか
- ③ 発表後の質疑に適切に対応したか

について確認します。なお、卒論要旨は、後日掲示する書式に従い、Webへの登録とともに印刷物1部を提出してください。発表は、コンピュータによる発表支援ツールを用いてください。

(4) 卒業研究提出に関する注意事項

卒業研究の提出にあたっては、下記注意事項を熟読して提出してください。

なお、提出期日等の詳細は、10月上旬に掲示板に掲示しますので、その指示に従ってください。

◎使用用紙・表紙および体裁

- ・ワープロにより作成すること。
- ・用紙はA4の白用紙を使用すること。
- ・原則として横書とし、片面印刷すること。
- ・印字は1頁あたり1000～1200文字とする。
- ・目次、頁番号をつけること。
- ・表紙をつけること。
- ・表紙の様式は以下のとおりです。

A4白用紙－横書

流通経済大学	
〇〇〇〇年度卒業研究	
論文題名	
指導教員 〇〇〇〇	
学生番号	学科
氏名	
受付印	

- ・WEB上に表紙、目次および本文のテンプレートファイルを用意するので、各自ダウンロードし、参考にして利用してください。
- ・紙のフラットファイル（A4、2穴）を用意し、表紙を、フラットファイルの表紙部分に貼り付けてください。
- ・表紙をもう一枚作成し、中表紙として卒業論文の1ページ目としてください。
- ・卒業研究題目に副題がある場合は前後に－線を引き明示してください。
- ・綴込みは左とじとし、中表紙、目次、本文をフラットファイルでとじてください。
- ・上記以外の体裁にする場合には、指導教員の指示に従ってください。

2019年（平成31年）4月発行

流通情報学部

履修要綱

流通経済大学

RKU

<http://www.rku.ac.jp/>